

御礼のことば

福島学習センター所属 伊藤たか子

本日は、私たち卒業生・修了生のために学位授与式を挙行いただき、誠にありがとうございます。また、ご多用の中、ご出席いただきました学習センター所長をはじめ、客員教員の皆様、職員の皆様、そして福島同窓会会長様に、改めて感謝申し上げます。

さて、思い起こせば、私は70歳をこえてから本格的に放送大学の全科履修生として入学し、その学習を全面的に展開させたことになります。

皆さんは、定年退職を一度迎えた後にそうした年齢で、私が放送大学の門をたたいたのはなぜだと思いますか。私の「入学の決意」は次のようなものです。

私は、若い時に看護師を志し長く看護職として勤務してきました。その看護職としての仕事を長く継続する中で、病理医学や医療現場を支える科学技術は急速に進歩し、医療現場を支える看護職の仕事やその専門性もより高度化していききました。命を支える看護職をまっとうしていく上では、単に「看護職」という「資格」を持っているだけでは十分に対応できないのではないかと考えるようになりました。その結果、放送大学に入学する前にも、看護職としての専門性を高めるために、一度、「国際医療看護福祉大学校」に入学しました。

そのように、「看護職」という仕事に正面から取り組む努力を続ける中で、人間の「命」を支える「看護」という仕事は、病院での「患者」さんに必要とされるだけではなく、日常生活において「命」や「健康」を維持し守ろうとする場面でも広く必要とされているのではないかなと思うようになりました。その結果、病院に直接関わる場面だけでなく、ひろく「看護」的なサポートを必要とされている障がい者の皆さんのための仕事にもたずさわるようになりました。さらには、今日の高齢社会では、「看護」と同時に「介護」の必要性も高まっていくことに気がつき、「介護」に関する理解をそなえた「看護職」としての役割も果たしていきたいと考えようになり、「養護」や「介護」に関わる資格もとりました。このように、「看護」の仕事を多面的に捉えその理解を広げていくうちに、「障害」や「福祉」、「介護」の後ろにある社会的課題や福祉に関する理解も深め、総合的に学びなおしていきたいと考え、放送大学に入学しました。つまり、「学士」の学位を取得し、個別の「看護」と

いう場面の専門職としての資格だけでなく、それを広い学識により裏打ちさせながら深め、どんな場面でも全国・世界で通用させることができる「学位」との、いわば＜二刀流＞の対応で、その専門職の力を高めようと考え入学を決意することになりました。

入学当初は、レポート、卒論研究、講義に追いついていけるだろうかなど、ずいぶん、心配もしました。しかし、先生方や仲間・友人のおかげで乗り越えることができました。

面接授業では、先生方の、教師としてだけでなく人間としての生き方を垣間見る瞬間もあり、尊敬する先生方とともに貴重な時間を過ごすことができました。また、卒論研究では、IT関係にうとい私に、先生方は、根気よく、研究内容の添削指導だけでなく、パソコン指導まで手取り足取り指導して下さいました。これらの放送大学での経験は貴重なものであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、忘れられない経験としては、面接授業の際に体調不良となり意識を一時失われた学生さんを看護した時のことがあります。幸い、救急車を呼ぶにはいたりませんでした。でも、そこで、改めて、看護という仕事は、いつでも、どこでも必要とする人がいれば実践することが使命となる専門職であり、生涯、その仕事は必要とされる大事な仕事であることと「命」の大切さを再確認しました。こんな経験もあり、それまで以上に、放送大学で、より広い社会的知見を広げることにより、「力」のある看護職として実践できるようになりたいと強く思うようになりました。「学士」の学位を取得したいという意欲も、より一層、強められました。どの経験も、私の「宝物」であり、これからの私を支えてくれるはずです。

最後になりますが、今日、ここに学位が授与されたこと、本当にうれしく思い、感謝・感謝の気持ちでいっぱいです。私は、今後も、放送大学で学んだことをいかしながら、看護の仕事を一生涯続けることができると思います。今の看護や介護の仕事を続けながら、また、新たな仕事にも挑戦し、今まで教えて下さった先生方にも感謝しながら、この道を邁進いたします。本当にありがとうございました。

令和7年3月29日

いわきサテライトスペース所属 森井千賀子

本日は私たち卒業生のために、このような学位授与式を開催して頂き、誠にありがとうございました。

私は26年前の春、この学び舎に入学いたしました。それから、7回の卒業を経て、今日名誉学生として放送大学の全課程を修了いたします。

この間、とても長い道のりでしたが、今日という日が来るとは、夢にも思っておりませんでした。

1回目の卒業を目指した頃は、126単位の単位認定試験がとても大変で、重いものでした。当初いわきサテライトスペースでは面接授業が行われておらず、卒業のために福島学習センターにて、泊りがけで単位習得をしました。

しかし、学びを通して、知らなかったことが知り得たり、試験の大切さを実感したりすることは、達成感やワクワク感が先に立ち、次から次へと学習意欲が沸き、進んで行けました。

2回目の卒業は2011年、あの東日本大震災の時でした。卒業式は延期され、私は仕事の都合で茨城県

へ避難し7年間の避難生活を送りましたが、その間は茨城学習センターにお世話になりました。放送大学は各都道府県に学習センターがあり、異動することができたためとても助かりました。ここでは避難しているとは、とても言えませんでした。学生の交流が活発で多くを学ぶことが出来、楽しく面接授業も受けることが出来、ここで3度卒業をすることもできました。

そして、7年前に、このいわきサテライトスペースに戻り今日が2回目の卒業となりました。この場所は何より居心地の良いところです。

この学び舎があったからこそ、学ぶことと仕事を両立させることができました。

この場所を作ってくれた学習センター所長及び事務所の方々には、お礼の言葉しかありません。ありがとうございました。

最後になりましたが、放送大学の益々のご発展をお祈りいたしまして、お礼の言葉といたします。

令和7年3月30日



公開講演会のお知らせ

いわき

いわき市社会福祉センター4階



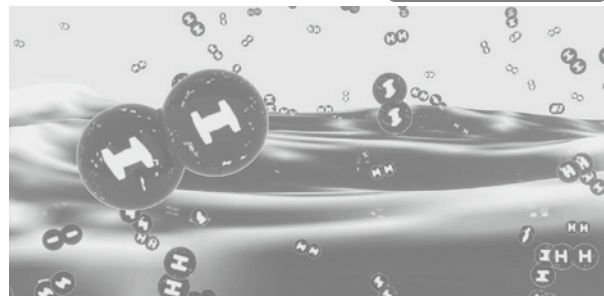
エイジングの心理
～年を重ねることと健康生活～

郡山

放送大学福島学習
センター講義室

オープンキャンパスも
同時開催

要申込 12:30～13:00
【内容】放送大学内容説明・
施設見学など



水素エネルギーとサプライチェーン

日時／**2025(令和7)年8/30**土

■開場12:30

■開演13:00～14:30

会場／いわき市社会福祉センター4階

演題／エイジングの心理

～年を重ねることと健康生活～



超高齢社会において、年を重ねることが相変わらずネガティブにとらえられることが多いようです。人はだれしも年を重ねることは自然なことです。子どもも若者も中高年も、皆さん“発達”というエイジング(加齢)の過程にあります。健康なエイジングという「生きる」プロセスについて、皆さんと考えてみましょう。

講師／放送大学客員教授・
福島大学名誉教授
五十嵐 敦 氏

日時／**2025(令和7)年8/31**日

■開場12:30

■開演13:00～14:30

会場／放送大学福島学習センター講義室

演題／水素エネルギーとサプライチェーン



近年、次世代エネルギーとして「水素エネルギー」が注目されています。福島県でも、福島水素エネルギー研究フィールドの開所や、福島大学水素エネルギー総合研究所の設置など、様々な取組が行われています。このように注目されている水素エネルギーですが、その普及にはサプライチェーンの構築や安全性などの課題があります。本講演では、水素エネルギーの基礎知識や、水素エネルギーのサプライチェーンの事例などを紹介します。

講師／放送大学客員教授・
福島大学共生システム理工学類教授
石川 友保 氏

定員・お申込み・お問い合わせ

■各先着**35名**(要予約)

※各回とも定員になり次第終了します。お早めにお申込みください。

■事前電話予約

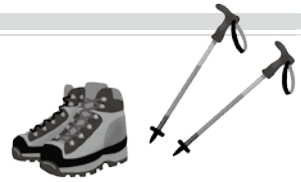
開催地別に電話でお申込みください。

- ・いわき いわきサテライトスペース TEL.0246-22-7318
- ・郡山 福島学習センター TEL.024-921-7471

主催：放送大学福島学習センター 後援：福島県教育委員会・郡山市教育委員会・いわき市教育委員会

学生サークル紹介

福島登山サークル



私の山行き紀行

放送大学福島登山サークル 安田 弘

あなたはなぜ山に登るのか？と聞かれたら「そこに山があるからだ」と答えた方もおりました。私は、五感を研ぎ澄まし直しに行く、と言う感じでしょうか。

日頃パソコンやテレビで酷使してる眼に、新緑・樹木や野の花に目の保養をし、頂上で遠方の山々を眺める。最近では、クマの出没注意で遠くを警戒して目を凝らす。

草花や風の香りを感じる。

鳥のさえずりや木々の葉の擦りあいを感じる。

登山道の脇の木々や岩肌を支えに辿る。

そして山頂付近でおにぎりをがぶつく。ああ、生きてるなあって感じる時、達成感に満ち溢れます。

私が放送大学福島登山サークルに参加したのは、平成25年のこと。入学してすぐ登山サークルがあることを知りました。参加していきなり、春雪の燐ヶ岳でした。民宿に前泊して、翌日は快晴の登山でした。

これで気を良くして、夏には富士山に次ぐ標高の「南アルプス北岳」の山行きに参加しました。初の山小屋登山でした。興味と不安とで興奮の連続でした。

あんなところに登れたんだ、と安堵と大満足感がありました。

みんなで登れば、登れちゃうんですね。

下表が、2025年度の山行き計画案です。



北岳の雄姿(平成25年)

月	日	山 行 き	標高(m)	備 考
2	16、2	総会、※ 裏磐梯五色沼遊歩道		※印：自主開催
3	2	※ 安達太良山		
4	20	前山・惣山(金山町)	816	何とか楽な山
5	4～5	※ 燐ヶ岳(檜枝岐村)	2,346	
5	18	小野岳(下郷町)	1,383	何とか楽な山
6	8	白笹山・南月山(栃木県)	1,775	
7	20～21	平ヶ岳(プリンスコース新潟県)	2,141	
8	2～4	蝶ヶ岳・常念岳(長野県)	2,677	アルプス連泊の初級コース
9	7	本名御神楽(金山町)	1,266	少しキツイかな
10	5	奥(日光)白根山(栃木県)	2,578	
11	9	奴田山(会津若松市)	723	割りと楽な山
12	14	湯ノ岳(いわき市)芋煮納会	593	ファミリーコース

約30名の会員は、己に合う山行きを楽しんでいます。

行き交う山仲間との出会いを楽しみ、風景美を満喫してリフレッシュしています。

さあ、あなたも一緒に山の世界を覗いてみませんか！

いつでも入会は可能です。

お試しでの山行き参加も歓迎です。

皆様のお仲間入りをお待ちしております。

山で会いましょう。

入会希望・問い合わせ先：

会長 高橋八重子 TEL/FAX 024-944-8342

幹事 斎藤 芳久 TEL/FAX 024-546-8676

携帯電話：080-1809-0046

E-mail：saito-y@chive.ocn.ne.jp



山での集合写真